

めぐみの学校の子

恵田小

校長室だより

令和元年十月十一日

No. 138

いつまでも

半袖では、朝、肌寒さを覚えるころとなった。昼には、ツクツクボウシの声がまだ聞こえる。週末の台風が、暑さを連れてくるのか、残っている暑さを連れていくのかわからないが、できれば台風後は秋らしい日が続くとよい。そして、台風による被害がないことを強く願う。

例年のないイノシシによる被害のあった落ち葉スキー場は、市の協力により、草刈りが行われ、イノシシに掘られた穴がふさがれた。だいぶよい状況になったが、さらに整備を少しずつ進めておきたい。

そんな折、恵田小にかつて（昭和50年代）にお勤めになられた先生から、落ち葉スキーで使える（使用期限の切れたサラダ油、板の裏に塗る）油を提供したいと話があり、いただいた。今年の落ち葉スキーでの使用分は十分ありそうだ。何よりもうれしかったのは、お勤めされていたころから40年ぐらいたっているのに、恵田小、落ち葉スキーのことを思い出してくださったことだ。



恵田小を去られた職員は、恵田小を大切に思ってください。こうした目に見えない温かい思いがつながり、今の恵田小がある。去られた職員をいつまでも大切な存在として思い続けたい。行事などの機会があればご案内を差し上げ、学校に来ていただくようにしている。

この気持ちは、恵田っ子や保護者の皆さんに対しても同様である。「いつまでも恵田っ子」「いつまでも恵田小保護者」だと思っている。

恵田っ子へ

「恵田（えた）っ子（こ）ハーモニー」

恵田っ子ハーモニーや全校音楽（ぜんこうおんがく）のことをしらべています。昭和（しょうわ）五十二年（ごじゅうにねん）四十年ぐらいまえまでは写真が見つかり、しらべることができました。

当時の恵田小の学芸会（がくげん）（がく）は、劇（げき）と音楽を学年（がくねん）でやり、さらに、全校（ぜんこう）（ぜんこう）そろっての音楽の発表（はっぴょう）（はっぴょう）をやっていたようです。それが、今の恵田っ子ハーモニーへとつながっているのだと思（おも）います。

恵田小（えたしょう）では、音楽の発表を大切（たいせつ）（たいせつ）にしています。朝（あさ）の練習（れんしゅう）（れんしゅう）の時間（じかん）（じかん）、元気（げんき）（げんき）できれいな歌声（うたごえ）（うたごえ）がきかれるようになってきました。今年（ことし）（ことし）の恵田っ子ハーモニー、恵田っ子の「和（わ）ハーモニー」を表（あらわ）し、最高（さいこう）（さいこう）のステージにしましょう。

